

地域を守る消防団



ベテラン×若手団員の活動と本音

火災や災害から地域を守る消防団はまちの安全に欠かせない存在ですが、全国的に団員の減少が課題となっています。活動内容ややりがいについて3人の消防団員から話を聞きました。

図 消防本部警防課
(☎ 0848-64-5924)



鷺浦分団
ふなつぎ 船附 舞さん(20代)

団歴:1年 職業:会社員
家族構成:夫家族と7人暮らし
趣味:釣り

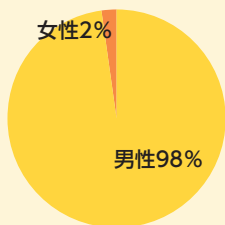
須波分団
みすくれ じんや 水呉 仁哉さん(30代)

団歴:5年 職業:会社員
家族構成:妻・子(2歳)
趣味:バスケットボール

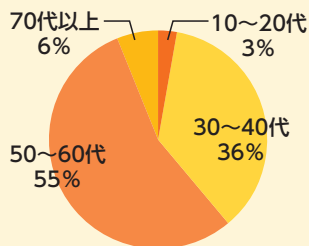
消防団長
久保 誠さん(70代)

団歴:40年 職業:会社員
家族構成:妻
(子2人は県外在住)
趣味:妻とドライブ

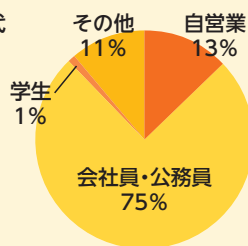
性別



年齢



職業



40代以下の若手が少なく、高齢化が課題。
また、女性の数もっと増やしていきたい。

※市消防団のデータ

市の消防団について

自分たちの地域を守る活動

「自分たちの地域は自分たちで守る」という思いのもと、火災や災害が発生したときに自宅や職場から現場へ駆け付け、その地域での経験を生かした消火・救助・避難誘導などの活動を行います。出動の際には消防職員と同様の活動を行うため、日頃から訓練に取り組んでいます。

仕事や家庭と両立できる

令和8年9月現在、団員数は1,099人で、女性は19人。地域ごとに全31の分団があり、団員は会社員や学生、主婦などそれぞれ自分の仕事があるため、平日の夜や土日に活動しています。40代以下の若手や女性が増えると地域を守る力をさらに強くできます。

若手や
女性を
募集中!

団の活性化や次世代の育成のため
若手を求めています。

災害時の性別に応じた細やかなケアや
火災予防などの各種啓発活動を行うため、**女性の視点が必要です！**



消防団に入団した きっかけは？

久保さん…40歳の頃、会社と家を往復するだけだった私は、消防団の同級生の楽しそうな訓練姿をうらやましく感じていました。仕事が多忙で悩みましたが、あの姿が決め手となり入団。40年が経ち今は消防団長を務めています。

水呉さん…西日本豪雨の際、地元の消防団が土のうを積む姿がかつこよく見え、また、とても感謝をしていました。地域の知人から誘われ、「自分にできるかな」と不安はありましたが、生まれ育った地元の須波に貢献したいという思いから入団しました。



船附さん…父が団員で存在は知っていましたが、大人になり消防団がチームのドラマを見て興味が湧きました。結婚して佐木島に住むようになり、離島だからこそ住民同士の助け合いが必要だと実感。知人に声を掛けてもらい入団しました。

久保さん…入団してみてもうですか？

水呉さん…訓練は大変ですがしんどいだけでなく、他の地域の団員とのつながりができ、交流も楽しめています。



活動内容や 活動回数は？



水呉さん…車両や機械器具の点検、消火・救命活動の訓練を行います。私の所属する分団は、毎月の点検を班で交代して行うため、点検を担当する月の活動は、月1、2回、土日のどちらかの午前中が基本です。私は規律訓練の大会に参加するので、現在は月3回訓練もしています。

船附さん…私の所属する分団も月1回の車両・機械器具点検や規律など基礎訓練をしています。活動の出欠はLINEで連絡し合い、私は2カ月に1回程の活動です。基本は土日の午前中で、平日の活動はほぼありません。

水呉さん…AED救急救命訓練やなどなどの地域のイベントに参加することもあります。

久保さん…本部の私は、各分団の訓練に立ち合っって指導しています。団員がけがや熱中症にならないよう体調管理もしています。



女性団員の活動

- ・消火や救命訓練
- ・地域や事業所での救命講習会の実施



- ・火災予防の広報活動
- ・災害時の救命活動や避難誘導など



消防団の活動



災害に備えて



- ・ポンプ車や小型動力ポンプを使った放水訓練
- ・出水期に備えた水防訓練
- ・迅速な行動を身に付けるための規律訓練
- ・救命講習会の実施
- ・地域巡回 など

災害発生時

火災や災害が発生した際は、
消防署と連携して現場に駆け付ける



- ・消火活動
- ・救助
- ・避難誘導
- ・危険箇所の見回りや浸水防止の土のう積みなど





仕事や家庭との調整は？

船附さん…接客業のため土日が休みにくい職場ですが、団の皆さんが「行ける時で大丈夫」とフォローしてくれるので、両立しやすいです。

水呉さん…火災はいつ起きるか分からず、私は4回経験しました。出動の連絡はすぐ来ますが、無理に仕事を抜けず動ける人が対応する体制で、仕事と調整しやすいと感じます。日曜日の訓練は、妻が娘を見てくれます。家を空ける私を快く送り出してくれる家族に感謝しています。

久保さん…私もそうでした。家族の理解と協力は必要だと感じますね。



やりがいはい？

水呉さん…地域の人から感謝されるとうれいですね。訓練では、仲間と同じ目標に向かって努力し、チーム一丸となって取り組めることがやりがい、プライベートで食事にいくほど仲が良くなりました。これらの目標は、火災現場へ私が一番最初に到着しても、迷わずに活動できるようにになることです。



市民の皆さんへメッセージ

船附さん…大きな出動はまだないですが、島で「若い女性が入った」とうわさになり、地域から必要とされていることを肌で感じています。この期待に添えて力になりたいというのが、今の私の原動力です。また、家族など大切な人が体調不良の時、いざという行動に役立つ救急救命の知識が身に付くのも心強いです。



船附さん…消防団員としての基礎を身に付け、困っている人が私の制服姿を見ただけで「安心できる存在」になることをめざしています。女性だからこそできる仕事はたくさんあります！チーム一丸となつて一緒に地域を守りましょう。

久保さん…市民の命や財産を守るためには人数が力になります。若者のパワーは団を活気付け、市民の安心にもつながります。「やってみたい、地域に貢献したい」という気持ちがある方、一緒に活動しましょう。



消防団についての問い合わせ先



消防本部警防課
(TEL 0848-64-5924)

▲市HP

見学もできるので、興味のある人は気軽に連絡してください。

警防課 児玉副士長



消防まつり

10月24日(土)開催の「第50回三原消防まつり」には消防団も参加します。団の活動を見に来てください。(18ページ参照)



消防団員の本音

実は...

活動は月1～2回

週末の午前中の活動が多く、月1回機械器具や車両の点検を班交代制で行います。消火・救命・規律などの訓練活動も月1回程度。火災発生時は、仕事の調整ができる人が対応します。



家庭との両立

休日の活動や出動の際、家事などは家族に任せることもあり、家族の理解と協力が必要です。家族や身近な人をいざというときに守ることができる知識や経験が身に付きます。



消防団員としてのやりがい

日頃の消防訓練や救命活動について、住民の皆さんから「ありがとう」と言ってもらえること。世代や職業に関係なく幅広い地域でつながりをつくることができます。

